

IV-1

アーバンリゾートコンセプトの把握をめざした余暇行動の分析

立命館大学	正 員	春名 攻
J R西日本㈱	正 員	山田 孝弘
立命館大学大学院	学生員	越名 健
立命館大学大学院	学生員	○大島 良彦

1. はじめに

本研究においては、都市における効果的なリゾート・レクリエーション空間の開発計画を、よりよい方向へ展開させるために、人々の余暇行動の分析を通して、空間施設整備に関するニーズを明らかにするとともに、アーバンリゾートのコンセプトを把握していくこととする。そして、公共的な立場から、いかなる都市生活者のための空間や施設整備が重要であるかを検討する。さらに、都市生活者が、より明るく楽しい生活を行うことのできるような、リゾート・レクリエーション空間や施設を提供することのできる整備計画を、効果的に策定する方法について検討することとする。

2. アーバンリゾート行動把握のための分析に関する考察

本研究においては、アーバンリゾート事業をよりよい方向へ展開させていくため、アメニティ性とアミューズメント性の高く魅力あふれる都市空間を、都市の人々に提供していくことが必要と考えた。そして、分析を始めるにあたって、アーバンリゾートに対しての概念的な定義を以下のように行った。

日常生活において、人々の余暇時間を充実させるための欲求を満たしてくれるリゾートのうえでの、職場や家庭をベース（キャンプ）とした日帰りの範囲内のリゾート

本研究グループでは、これまで、この定義に基づき、アーバンリゾートとして望ましいと判断される具体的な施設を実証分析や意識調査を通して明らかにし、リゾート関連への諸施設の複合化についての検討を行ってきた。今回の研究では、アーバンリゾート計画の作成にとって必要と考えられるコンセプト

を把握するために、アーバンリゾート行動における施設の利用目的、場所、交通手段、利用金額、利用同伴者、利用時間、さらには、サービス、イメージを社会的ニーズとして把握していくこととした。そして今回は、まず20歳代の男女の就業者を対象として、リゾート行動に影響を及ぼすと考えられる構成項目を明かにしつつ、アンケート設計を行った。そしてアンケート調査を、主に関西圏に在住の20歳代の男女の就業者を調査対象として実施した。このため今回の調査では、アンケート項目に関しても平日と休日に分け、調査を行った。分析方法としては、男女によるアーバンリゾート施設へのニーズを明らかにするため、判別分析法を用いた。（実証的検討としては、紙面の都合上割愛し、詳細については講演当日に発表することとする。）

3. アーバンリゾートのニーズに関する実証的分析結果

（1）アーバンリゾートに求めるイメージに関する分析

アーバンリゾートに求めるものとして、「心身のリフレッシュができるもの」、「静かで落ち着くもの」といったイメージが高く、「にぎやかで騒げるもの」というイメージは、比較的低いと考えた。

（2）精神的なリフレッシュへのニーズに関する分析

「休養などをして精神的なリフレッシュ（仕事などのストレスを解消）するための施設」へのニーズは男女とも高かった。具体的な施設としては「都市の中にある静かで落ち着いた公園」のニーズが最も高くなっていた。先に述べたアーバンリゾートに対するイメージにおいても、「心身のリフレッシュができるもの」、「自然にふれること」といったイメージが高いことから、都市における公園緑地などのグリーンは、心身のリフレッシュの場として捉えら

(表1) 休日のアーバンリゾート行動
(スポーツ施設の場合) (娯楽施設の場合)

	男性(順位)		女性(順位)		判別係数
大会・イベント	1.7255	⑧	1.5344	⑧	0.372663
指導者のレベル	2.2157	⑥	2.1374	⑦	0.133059
施設の規模	2.5588	④	2.4733	③	0.115007
近隣施設	2.2059	⑦	2.2977	⑥	-0.398599
機材・器具	2.6078	③	2.4733	③	0.384066
衛生面への配慮	2.7157	②	2.6565	①	0.050143
安全面への配慮	2.5000	⑤	2.6260	②	-0.805245
駐車場の整備	2.8039	①	2.4199	⑤	1.059660
定数項	————		————		-2.103140

	男性(順位)		女性(順位)		判別係数
企画・催し物	2.0392	⑧	2.0458	⑧	0.037758
職員のマナー	2.5098	⑤	2.4962	⑤	0.182590
施設の規模	2.5490	④	2.5649	④	-0.208031
近隣施設	2.3922	⑦	2.5802	③	-0.662087
最新の設備	2.6765	③	2.6107	②	0.416116
衛生面への配慮	2.6863	①	2.7252	①	-0.261222
安全面への配慮	2.4608	⑥	2.4504	⑥	0.012870
駐車場の整備	2.6863	①	2.4351	⑦	0.728293
定数項	————		————		-0.645942

れ、アーバンリゾート施設として非常に有効なものと考えられる。

(3) 平日におけるアーバンリゾートへのニーズに関する分析

平日の余暇活動としてアーバンリゾート施設を利用する際、活動目的として、軽い運動やスポーツが最も多く、続いて趣味の活動となっており、娯楽(遊び)は比較的少なかった。施設のサービス面としては、今回のアンケート対象者の男性は、女性と比較して、「駐車場の整備」へのニーズが高くなっていた。女性においては、「施設の清潔さ」へのニーズが高く出た。女性をターゲットとした場合、「清潔である施設」というのは、アーバンリゾート施設において重要なポイントであると考えられる。

(4) 休日におけるアーバンリゾートへのニーズに関する分析

(a) 施設の利用形態についての分析

スポーツ施設では、具体的な施設としてゴルフ場、テニスコートなどのスポーツ練習場へのニーズが高かった。施設の場所としては、「自宅の近く」を答えた人が多く、かつ交通手段としては自動車を選んだ人が多いが、わざわざ遠くへ出かける人は少ないと考えられる。娯楽(遊び)の施設では、具体的な施設として映画館・劇場や、遊園地などへのニーズが高かった。娯楽施設に関しては、比較的金額が高くてもより良いものを利用したい人が多いと考えられた。見学・鑑賞の施設では、具体的な施設として、動物園・水族館などへのニーズが高かったが、施設の場所としては、郊外と答えた人が多く、交通手段とし

て自動車を利用する人が多かった。

(b) 施設のサービス面に関する分析

全体についてみると「スポーツ」、「娯楽」、「見学・鑑賞」の3タイプの施設において、男女とも「施設の清潔」さについてのニーズが高かった。特に女性において、この項目についてのニーズが高かった。トイレや更衣室などの清潔面については、最低限必要なサービスとして考えられる。また、男性においては、活動目的別の3タイプの施設全てにおいて、「駐車場の整備」へのニーズが非常に高かった。これは、平日の場合と同様に、女性に比べて男性の自動車保有率が高いことが影響していると考えられる。女性において「スポーツ施設」では、「安全面への配慮」についてのニーズが高かった。「娯楽(遊び)施設」では、男性と比較して、「近隣施設」へのニーズが高かった。これは、映画館・劇場などの施設を利用した際、帰宅途中に、ショッピングセンターやスーパーマーケットなどを利用したい女性が多かったためと考えられた。このような実証分析の一例として、判別分析の結果を表1に示した。

4. おわりに

本研究は以上のようなものであるが、今後は、対象者を主婦層などにも拡大して同様な調査を行い、ターゲット別にコンセプトの明確化を行っていき、全世代・性別を総合した共通のコンセプトを求め、多様化するニーズにも的確に対応した計画を作成していく方法を研究することが重要であると考えている。